

jaspm

NEWSLETTER #90

日本ポピュラー音楽学会

vol.23 no.4 Dec 2011

研究例会報告

p. 1 第4回関西地区例会報告.....二宮 健一

第23回年次大会実行委員会より

p. 4 第23回年次大会のご案内..... 増田 聡

Information

p. 6 理事会・委員会活動報告

p. 7 会員からの OUTPUT

p. 7 事務局より

2011年度第4回関西地区例会報告

二宮 健一

日時：10月15日(土)

会場：関西学院大学 大阪梅田キャンパス

1. 鉄腕アトムの効果音をもたらしたもの

宮田昌典氏（京都市立芸術大学大学院 博士後期課程）

1963-66年にかけて放映されたTVアニメ作品『鉄腕アトム』の制作スタッフは、アニメにおいては前例の無かった週30分という時間枠に対応するため、「三コマ撮り」「トメ」「引きセル」「くりかえし」「部分」「ロパク」「兼用」「ショート・カット」と呼ばれる節約方法を生み出した。宮田氏によれば、同作品における効果音の

使われ方もこうした節約方法と密接に関係しており、ここからTVアニメという媒体と効果音の関係を考察することができるという。

本発表で宮田氏は、映像資料を用いながら、二つの視点から『鉄腕アトム』の効果音を分析して見せた。

一つ目の視点は、同作品の効果音をアニメーションとの「同期性」という観点から「同期的」「半同期的」「非同期的」の三つに類別し、それぞれの「機能」を分析するというものである。「同期的」な効果音とは、アニメーションに追従して鳴らされる効果音であり、アニメーション上の様々な要素をA) 強調する機能、B) 装飾する機能を持つという。「半同期的」な効果音とは、アニメーションと基本的に同調しつつも、アニメーション自体のつくりによってシンクロが曖昧になっている効果音である。こうした効果音はアニメーションに状態や方向性などの情報を、C) 付加する機能を持つという。「非同期的」な効果音とは、アニメーションと噛み合わないタイミングで用いられている効果音である。これはアニメーションの動画枚数が少ないという事情から生じている場合が多く、D) アニメーションを増幅する機能、E) 何らかの要素を描写する機能を持つという。

二つ目の視点は、効果音を用いたキャラクターの「身体性」表現を分析するというものである。第1話のアトム誕生シーンと、第54話のアトム誕生回想シーンでは同じアニメーションが使われるが、前者でのアトムの動作音は金属的なものだったのに対し、後者ではアトムのキャラクターを表現する柔らかく軽やかな動作音に差し替えられている。一方、敵役で登場する巨大ロボットには低く、重く、濁り、耳触りな動作音があてられ、アトムのキャラクターとの差異化が図られている。これらは効果音でキャラクターに「身体性」を付与する手法だという。さらに宮田氏は、「まだまだ調査段階である」としながらも、『うる星やつら』『機動戦士ガンダム』の効果音との比較も行ない、『鉄腕アトム』

で開発されたこの手法がその後の日本アニメに引き継がれている可能性も示した。

フロアからは、例えばディズニーのアニメ作品からの影響の有無について質問があった。宮田氏によれば、ディズニー作品ではキャラクターや事物の動きに音楽の拍や旋律を対応させる「ミッキーマウシング」の手法が中心となる傾向があり、『鉄腕アトム』の手法とは基本的に異なるそうである。こうした海外アニメやTVドラマとの比較考察は宮田氏自身も今後の研究展開の方向のひとつと考えているそうである。

フロアからは、「同期性」に基づいた効果音の類型化とその機能分析についても反応があった。よりシンプルな区分が可能なのではないか、テレビ番組の制作現場で用いられる専門用語を援用することもできるのではないか、などの意見があった。宮田氏自身もこれらの概念・用語は今後さらに修正・洗練していきたいとのことであった。

本発表は、改めてここ50年間のアニメーション技術の発展を実感できるとともに、日本のTVアニメ黎明期における製作者の思考錯誤の様子が感じられる魅力的な発表だった。分析概念をさらに精緻にし、また『鉄腕アトム』以外のアニメ作品やドラマなどとの比較の視点も取り入れることで、TVアニメという表現形態だからこそ可能だった効果音手法、あるいは当時のTVアニメの技術的限界のなかでこそ生じた効果音手法を明らかにしようとする宮田氏の今後の研究の進展が楽しみである。

2. ウガンダ、カンパラの流行曲を追う若者たち：学校と社会、娯楽とビジネスのあいだで 大門碧（京都大学大学院 / 日本学術振興会）

ウガンダの首都カンパラでは、2000年前後から「カリオキ (*karioki*)」と呼ばれる新しいエンターテインメントが流行している。これはポピュラー音楽に合わせてマイム（いわゆる「口パ

ク」と身振りでの表現)、ダンス、コメディを行うもので、夜のレストランやバーのステージで行われている。パフォーマーは10～20代半ばの若者であり、10人前後のグループを作って活動している。

本発表は、この「カリオキ」について大門氏が2007年から現地で断続的に行っている合計17ヵ月の調査に基づくものであった。発表内容を構成していたのは、次の二つの研究視点からの検討であった。

一つめの研究視角は、ウガンダの社会と若者にとって「カリオキ」とは何なのか、という考察である。「カリオキ」パフォーマーたちに対しては、「売春婦／性関係にみだらな者」「学校から落ちこぼれた者」というネガティブなイメージがある一方、エンターテイメントとしての「カリオキ」に対する評価は高く、「売春よりはまし」な労働現場、将来の歌手が育つ場、との語りも聞かれる。また、実はパフォーマーの多くはウガンダの平均以上の最終学歴を持っており、学校で仲間たちと「カリオキ」をパフォーマンスした経験をきっかけにレストランやバーでの本格的な「カリオキ」活動を始めているという。彼らにとって、「カリオキ」活動は歌手などになるための一時的な練習の場、あるいは希望の職に就くまでの一時しのぎの稼ぎの場でしかない。こうした実態を踏まえ、大門氏はこの「カリオキ」を、学校／社会のあいだ、楽しみ／ビジネスのあいだに位置するものとして捉えている。また大門氏によれば、こうした「カリオキ」の実態は、アフリカのポピュラー音楽を貧困層の若者にとっての意見・アイデンティティの表現手段として捉えてきた先行研究の見解とはそぐわないという。

二つめの研究視角は、彼らの音楽使用の現場における相互作用の検討であった。パフォーマーは基本的に自分で使用曲を選び、用意する。ただし、ボスやDJの意向、用意したCDや店の機材の不具合、他のパフォーマーが同曲を先に使用している、などの理由で、自分が希望する

曲を使用できないこともある。パフォーマーの間で曲の使用権に関する明確なルールはないが、グループ内で最初にその曲を使い始めたパフォーマーが使用権を持つ傾向があり、他のパフォーマーがその曲を使いたい場合は、その曲を普段使うパフォーマーが出演しない時に使ったり、彼に使用許可を願い出たりするという。こうした実践の観察に基づき、大門氏は「カリオキの実践は、自分のしたいこととそれが思い通りにならない不安定で不確定な社会の中で、新しいものを取り込み、他者と交渉しながら、自分をつくっていく実践と重なっている」と考察した。

ここでの「他者」「交渉」という用語をめぐる質疑応答では議論があった。「カリオキ」パフォーマーが現場で出会う人々と、ウガンダの若者一般が学校から社会へというライフ・ステージの移行の中で遭遇する人々は同じ意味での「他者」といえるのか。「カリオキ」パフォーマー同士の使用曲をめぐる「交渉」と、社会的権力構造における弱者の「交渉」は同じものと言えるか。この論点は、大門氏が本発表の前半で行った「カリオキ」の社会的位置づけの考察と、後半で行った「カリオキ」パフォーマーの実践の観察・分析とがどのように繋がるのかを明確にしていくためにも重要だったと思われる。

大門氏自らもパフォーマーとして参加しつつ行ったという参与観察で得られた綿密な資料からは、まだ誕生後間もなく、若者のエネルギーに満ち、それゆえに輪郭が不明瞭な現場の感触がよく伝わってきた。これまでのアフリカのポピュラー音楽研究の枠組みでは捉えきれない新たな現象を扱った研究として、今後の展開が楽しみである。

(二宮健一 神戸大学大学院)

日本ポピュラー音楽学会 第 23 回大会 (JASPM23)のご案内

※大会最新情報はウェブサイトをご覧ください
<http://jaspm23.wiki.fc2.com/>

■日程：2011年12月10日（土）・11日（日）

■開催場所：大阪市立大学杉本キャンパス法学部棟（10日）、1号館（11日）

■大会参加費等

◎参加費

会員 一般……………事前申込
3,500円 / 当日受付 4,500円
会員 学生（含大学院生）※……………事前申込
2,000円 / 当日受付 3,000円
非会員 大会参加……………4,500円（当
日受付のみ）
非会員 シンポジウムのみ参加……………1,000円（当
日受付のみ）

※学生区分の適用を希望する方は、大会受付にて学生証の提示をお願いします。

※大学院生は、JASPMの会員区分では「一般 個人」となりますが、大会では「学生」扱いとなります。

◎懇親会費（12月10日、18:00 - 20:00、本部地区生協食堂）

会員……………（事前申込）一般 4,000円 / 学生（含大学院生） 2,000円

会員（当日支払）一般5000円 / 学生（含む大学院生）3000円

非会員……………会員（当日支払）に準じます

■お弁当（12月11日昼のみ、予約制）：800円

■参加申込について

◎参加をご希望の会員の方は、既にお送りした出欠確認ハガキに必要事項を記載のうえ返信し、大会参加費と懇親会費の合計金額を、これも同封の払込用紙にてお支払いください。

◎事前申込による払い込み期限は、11月25日（金）とさせていただきます。払込用紙の通信欄を、出欠確認ハガキと同様にご記入のうえ、お支払いください（手数料はご負担ください）。

◎払い込みが事情により11月25日以降となった場合は、お手数ですが、払込受領書を大会当日に必ずご持参いただきますようお願いいたします。

◎大会当日のお申し込み&お支払いは、大会受付にて承ります。

◎一度お支払いいただいた費用については返金いたしかねます。どうかご了承ください。

◎大会運営をスムーズにおこなうために、できるかぎり事前申込をご利用いただきますようお願い申し上げます。

■郵便振替口座

振替口座番号：00950-6-164152

加入者名：永井純一

■懇親会

12月10日（土）18時より、本部地区生協食堂（第2学生ホール）にて懇親会を行います。会費は事前払い込みで4000円、学部生・大学院生は2000円となります。（当日受付の場合一般5000円、学部生・大学院生は3000円となります）。参加予定の方はハガキと振込用紙に記入の上、参加費とあわせてお支払いください。懇親会費はご欠席された場合でも返却できませんのでご了承ください。

■基調講演・シンポジウムのみ参加（非会員向け・当日受付のみ）

10日（土）の基調講演とシンポジウムのみで1000円で参加することができます（要旨集は配布されません）。シンポジウムご参加の方は、懇親会費をお支払いいただければ懇親会にも参加できます。非会員でシンポジウムに参加を希望される方が周囲におられましたら、ぜひお誘いください。

■総会

一日目（12月10日（土））の16:40（予定）より総会を開催いたします。年一度の学会の意思決定の機会ですので、会員の方は必ずご出席ください。出席できない場合、ハガキの委任欄に必ずご署名の上、ご返送をお願いいたします。

■昼食

前述の通り、11日（日）の昼食は事前に振込用紙にて予約の方に限り仕出し弁当（800円）を用意いたします。キャンパス内の食堂は土日とも休業です。キャンパス周辺にはコンビニが三軒（JR杉本町付近）、他に昼食を食べることがで

きる飲食店や喫茶店が若干ございます。

■宿泊

ホテル等の宿泊は各自でご予約ください。JR天王寺駅周辺には下記をはじめいくつかのホテルがあります。

- ・天王寺都ホテル

<http://www.miyakohotels.ne.jp/tennoji/>
JR天王寺駅すぐ。

- ・ホテル中央 <http://www.chuogroup.jp/chuo/>
天王寺駅隣のJR新今宮駅・地下鉄動物園前駅すぐ。低価格・学生向け。

■駐車場

大会開催中の学内には自動車が入構できません。また近隣に駐車場もありませんので、公共交通機関にてお越し下さい。また、自転車やバイクでの入構も、登録車両以外は規制されていますのでご注意ください。

■会場地図・アクセス

大阪市立大学杉本キャンパスへは、JR天王寺駅が始発となる阪和線普通電車（快速は止まりません）で13分、杉本町駅で下車し、改札（西側一カ所しかありません）を出て左手に進み、踏切を渡ると会場にスムーズに到着します。阪和線の快速電車は天王寺駅を出ると杉本町駅より遠い駅（堺市駅）が最初の停車駅となりますので、普通ではなく快速にうっかり乗車すると通り過ぎてしまいます。ご注意ください。

関西空港から来られる場合、JR関空快速大阪方面行きで40分ほどの堺市駅で下車して普通電車に乗り換え、二駅目が杉本町駅となります。

また、大阪市営地下鉄御堂筋線あびこ駅で下車し、15～20分程度歩いていただいても杉本キャンパスに着きます。新大阪駅からお急ぎの方は、御堂筋線新大阪駅から地下鉄に乗車し、あびこ駅で下車（約30分）、そこに常駐しているタクシーで「大阪市立大学正門」までいらっしゃるのが最速と思われます。

杉本キャンパスは三つの地区に分かれておりますが、南側地区（本部地区、時計塔が目立つ1号館があり、その正面に高いヤシの木と芝生広場のある地区）が会場となります。南側地区の正門から入って右手奥に見える一番高いベージュの建物が法学部棟（一日目会場）、正面にある時計台の建物が1号館（二日目会場）となります。正門が閉じられている場合、正門左脇の通用門から入構してください。

詳細については

<http://www.osaka-cu.ac.jp/info/commons/access-sugimoto.html> をご参照ください。

■プログラム

2011年12月10日（土）

- 12:00～ 受付開始 法学部棟1Fロビー
- 13:00～ 開会挨拶 法学部棟3F 730教室
シンポジウム《危機の音楽／音楽の危機？ - 「災後」社会の音楽とメディア》
基調講演：津田大介（ジャーナリスト／メディアアクティビスト）
「現在の音楽ビジネスとソーシャルメディア・社会」
パネリスト：津田大介／毛利嘉孝（東京藝術大学）／森彰一郎（プロジェクト FUKUSHIMA!）／小川博司（関西大学）
司会：安田昌弘（京都精華大学）

- 16:40～ 総会 法学部棟3F 730教室
- 18:00～20:00 懇親会 本部地区生協食堂（第2学生ホール）

2011年12月11日（日）

- 9:30～ 受付開始 1号館1F正面玄関
- 個人研究発表A 1号館2F127教室
〈司会：増淵敏之（法政大学）〉
10:00～10:35 福田公正（中央大学）
・J-POPのCD売上枚数の回帰分析
10:40～11:15 小野寺彩乃（ホステス・エンタテインメント）
・デジタルに向う欧米、ガラパゴス化の進む日本
11:20～11:55 椎葉克弘（オリコンDD株式会社）・柴台弘毅（関西大学大学院博士課程）
・音楽を媒介としたコミュニケーションの現在 - “会いに行けるアイドル” AKB48を事例に-
- 個人研究発表B 1号館2F126教室
〈司会：谷口文和（亜細亜大学短期大学部）〉
10:00～10:35 秋吉康晴（神戸大学大学院博士課程）
・身体なき声へメディア化された声と同一性
10:40～11:15 宮田昌典（京都市立芸術大学大学院博士課程）
・商業アニメにおける効果音とキャラクターとの関係について～『鉄腕アトム』を中心に～
11:20～11:55 加藤綾子（東京大学）

・PCM録音をもたらすレコード産業の構造転換

◆information◆

●個人研究発表C 1号館 2F128 教室

〈司会：輪島裕介（大阪大学）〉

10:00～10:35 山下壮起（同志社大学大学院博士課程）

・世俗的靈歌としてのヒップホップ／ラップミュージック

10:40～11:15 南田勝也（武蔵大学）

・ライフコース論に基づく“音楽の季節”の考察

11:20～11:55 エドガー・W・ポープ（愛知県立大学）

・二村定一の「青空」：アメリカの楽譜とレコードとの比較

13:30～16:30

●ワークショップA 1号館 2F127 教室

ビデオデータから見る「音楽すること」

今井晋（東京大学大学院博士課程）

團康晃（東京大学大学院博士課程）

辻本香子（総合研究大学院大学／日本学術振興会特別研究員・非会員）

酒井信一郎（共立女子大学・非会員）

●ワークショップB 1号館 2F126 教室

ポピュラー音楽における電子打楽器の可能性

鈴木正樹（MASAKing）

梅田正之（ローランド株式会社・非会員）

西裕之（ローランド株式会社・非会員）

討論者：井手口彰典（鹿児島国際大学）

●ワークショップC 1号館 2F128 教室

ポピュラー音楽のローカル・アイデンティティ

問題提起者：東谷護（成城大学）

問題提起者：安田昌弘（京都精華大学）

討論者：大山昌彦（東京工科大学）

討論者：木本玲一（相模女子大学）

司会：山田晴通（東京経済大学）

● 16:40～17:00 閉会セレモニー

1号館 2F128 教室

理事会・委員会活動報告

■理事会

2011年第3回理事会（持ち回り）

2011年10月5日（議題送付）

2011年10月14日（回答締切）

議題1 前回議事録案の確認

議題2 新入会員の承認

議題3 退会者の承認

理事会より

◆選挙規則の改正案について

日本ポピュラー音楽学会では、2年に1度の役員選挙（理事・監事）を行っております。選挙は会則ならびに選挙規則にのっとり行っておりますが、その選挙権者・被選挙権者は前年度の会費納入に基づいて確定します。

しかし、会費請求書類の発送が毎年3月であるため、その際に未払いであった前年度の会費をまとめて納入する会員が相当数存在しております（JASPMは1月～12月が会計年度）。選挙規則の第1条では選挙権者・被選挙権者は「前年度までの会費を前年度中に納めた個人会員」と規定されており、これを厳密に適用すると、多数の会員が選挙権・被選挙権を失ってしまうことになります。その事態を回避するため、選挙管理委員会では慣例として、選挙権者・被選挙権者の全員が記載された選挙人名簿を作成する時点（通常選挙年の6月末頃）の前年度会費納入済の会員を選挙人名簿に記載し、選挙公報により会員全員に周知し異議申し立てを受け付け、異議がなければ選挙人名簿を確定するという手

順を踏んできました。

この件について、2011年6月19日に開催された本年度第2回理事会で検討した結果、選挙規則を改正し、実務に齟齬のないように規則を整備することが合意されました。そこで、以下のとおり、日本ポピュラー音楽学会選挙規則第1条の改正を、理事会より提案いたします。

【日本ポピュラー音楽学会 選挙規則】

旧 第1条 理事および監事の選挙権ならびに被選挙権を有するものは、前年度までの年会費を前年度中に納めた個人会員とする。

新 第1条 理事および監事の選挙権ならびに被選挙権を有するものは、前年度までの年会費を納めた個人会員とする。

日本ポピュラー音楽学会選挙規則第1条では、「前年度までの年会費を前年度中に納めた個人会員」を選挙権者・被選挙権者として規定しておりましたが、この資格のうち「前年度中に」という文言を削除し、選挙管理委員会が投票締切日の八週間前までに作成し会員に周知する選挙人名簿の作成時点で、前年度の会費納入済みの会員を選挙権者・被選挙権者とする趣旨の改正案です。

以上の規則改正の是非につきましては、総会にて議決を行いますので、会員の皆様には、ご検討のほどをお願い申し上げます。

会員からの OUTPUT

1. 宮入恭平／佐藤生実

『ライブシーンよ、どこへいく』（青弓社、2011年10月）

事務局より

1. 原稿募集

JASPM ニュースレターは、会員からの自発的な寄稿を中心に構成しています。何らかのかたちで JASPM の活動やポピュラー音楽研究にかかわるものであれば歓迎します。字数の厳密な規定はありませんが、紙面の制約から 1000 字から 3000 字程度が望ましいです。ただし、原稿料はありません。

また、自著論文・著書など、会員の皆さんのアウトプットについてもお知らせ下さい。紙面で随時告知します。こちらはポピュラー音楽研究に限定しません。いずれも編集担当の判断で適当に削ることがありますのであらかじめご承知おきください。

次号 (91 号) は 2012 年 2 月発行予定です。原稿締切は 2012 年 1 月 20 日とします。また次々号 (92 号) は 2012 年 5 月発行予定です。原稿締切は 2012 年 4 月 20 日とします。

2011 年より、ニュースレター編集は事務局から広報担当理事の所轄へと移行いたしました。投稿原稿の送り先は JASPM 広報ニュースレター担当 (nl@jaspm.jp) ですので、お間違えなきようご注意ください。ニュースレター編集に関する連絡も上記にお願いいたします。

2. 住所・所属の変更届と退会について

住所や所属、およびメールアドレスに変更があった場合、また退会届は、できるだけ早く学会事務局 (jimu@jaspm.org) まで郵便または E メールでお知らせください。

現在、各種送付物などはヤマト運輸の「メール便」サービスを利用してお送りしております。このため、郵政公社に転送通知を出されていても、事務局にお届けがなければ住所不明扱いとなります。ご連絡がない場合、学会誌や郵便物がお手元に届かないなどのご迷惑をおかけする

おそれがございます。

例会などのお知らせは E メールにて行なっております。メールアドレスの変更についても、速やかなご連絡を事務局までお願いいたします。

JASPM NEWSLETTER 第 90 号
(vol. 23 no.4)

2011 年 12 月 3 日発行

発行：日本ポピュラー音楽学会 (JASPM)

会長 佐藤良明

理事 大和田俊之・小川博司・久野陽一・
谷口文和・東谷護・増田聡・南田勝
也・毛利嘉孝・安田昌弘

学会事務局：

〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138

大阪市立大学大学院文学研究科 増田聡研究室

jimu@jaspm.jp (事務一般)

nl@jaspm.jp (ニューズレター関係)

<http://www.jaspm.jp>

振替：

00160-3-412057 日本ポピュラー音楽学会

編集：松井領明

発送：JASPM 事務局